

『方言疏證』及び『重校方言』所引「曹毅之本」について

佐藤進

一、清儒の揚雄『方言』校勘

揚雄『方言』は、晋・郭璞の注がついた本が伝わっている。明刊本には漢魏叢書本や古今逸史本などがあったが、清朝になって『方言』を四庫全書に収めるにあたり、纂修官の戴震はそれらの明刊本に飽き足らず、当時は現存していた永樂大典本『方言』を底本にして、異例なほどに大量の「案語」をつけた『方言』を呈上した（外題は『方言』、内題は『輜軒使者絶代語釈別国方言』）。文淵閣書前「提要」の末尾には「乾隆四十二年五月恭校上」、つまり戴震の没した年（一七七七）に呈上されたとある。ただし、戴震の名前は掲げられなかった。四庫全書本『方言』は、戴震の没後二年（一七七九）に武英殿聚珍版書として木活字本で刊行された。聚珍版本書前『提要』には「乾隆四十四年五月恭校上」とあり、さらに、ここではじめて「原纂修官庶吉子臣戴震」の名前が掲げられた。

その後、戴震の弟子たちが四庫全書本『方言』の「案語」の字句を調整し、「案語」は戴震の著述した「疏證」であるという位置づけをしたうえで、孔繼涵の微波榭叢書の一つである戴氏遺書に収めたのが『方言疏證』である（刊年の記載はない）。戴震の「疏證」は郭璞以来久しく途絶えていた『方言』の校注であった。それ以来、以下のように清儒による校注作業がなされてきた。

戴震『方言疏證』、乾隆四十二年（一七七二）年の四庫全書本を改修。

盧文弨『重校方言』、乾隆四十九年（一七八四）刊（抱經堂叢書）。

盧文弨は丁杰（一七三八—一八〇七）から資料の提供を受けて校勘に従事した（『重校方言序』）。

劉台拱『方言補校』、光緒一五年（一八八九）刊（劉端臨先生遺書）。

王念孫『方言疏證補』、民国一四年（一九二五）刊（高郵王氏遺書）、卷一のみ完成。

手稿は乾隆五二年（一七八七）（劉盼遂 2002）。

錢繹『方言箋疏』、光緒一六年（一八九〇）刊（紅蝠山房刊本）。

これらのうち、『方言』の校勘学上重要なのは戴震『方言疏證』と盧文弨『重校方言』であり、双璧をなしている。前者は『文選』李善注などの古籍に引用された『方言』を参照した校勘に特色があり、後者は随所に宋本『方言』を用いた校勘に特色がある。⁽¹⁾

しかし戴震盧文弨両者は、宋慶元刊本『方言』を見ることができず、⁽²⁾明正徳己巳年間（四年、一五〇九）抄写のいわゆる曹毅之本であった。⁽³⁾

一、曹毅之と曹毅之本

曹毅之とは誰のことであるか、曹毅之本とはどのような来歴のある本であるのか。曹毅之本を引用した戴震も盧文弨もその詳しいことを書き残してはいない。

『方言疏證』のなかで曹毅之本がはじめて出てくるのが、卷二第三条「秦有榛娥之臺」の疏證に「諸刻脫秦有二字、永樂大典本曹毅本俱不脱」とある箇所である。二番目に出てくるのが、卷二第七条「凡人言盛及其所愛、偉其肥臑謂之臑」の疏證に「今方言各本作、凡人言盛及其所愛曰諱其肥臑謂之臑、明正徳己巳影宋曹毅之刻本作曰偉、皆衍曰字、據説文及漢書注文選注刪、諱即偉之訛」とある箇所である。

しかし、第三条の「永樂大典本曹毅本俱不脱」は戴氏遺書本にはそうあるが、四庫全書本と聚珍版叢書本には「永樂大典本不脱」とあるだけで、「曹毅本俱」の四字はない。第三条のこの四字は戴震自身が書いたものではないと考えられる。なぜなら、凡例に記述されるような書誌的情報は初出の箇所にも一度だけ書くというのがこうした校注書の

通常の体例であつて、第七条には簡単なながらも「明正徳己巳影宋曹毅之刻本」という記述が見られる。すなわち、『方言疏證』で曹毅之の名が初出するのは第七条であると考えるのが至当である。

戴震の書き方から察するに、「明の正徳己巳の年に宋の曹毅之刻本を影写したもの」と考えるべきであり、「宋の曹毅之刻本を影刻した本」であると読み取るには無理がある。丁介民 1969 に「蓋誤明鈔為宋刻也」とするのは理解できない。ちなみに、盧文弨『重校方言』では「明正徳己巳影鈔宋曹毅之刻本」と、明瞭に「宋曹毅之刻本」の「影鈔」であると言っている。

ところで、宋代に曹毅之という人物の刻した『方言』があつたという書目上の記述は、今のところ存在しない。それにもかかわらず戴震も盧文弨も「宋曹毅之刻本」というのは、恐らく正徳己巳抄本の巻末に「正徳己巳夏五得曹毅之宋刻本手影」とあるのにもとづいたのであろう。その抄写時の識語はすでに現物を確認することは出来ないが、張金吾（一七八七—一八二九）『愛日精廬藏書志』にある次のような記述によって知ることができる。

輜軒使者絶代語釋別國方言十三卷、影寫宋刊本、漢楊雄撰、是本即戴氏疏證所稱曹毅之本也、卷十「膊、兄也」注「此音義所未詳」、各本「此」誤「皆」。

卷十一「南楚之外謂之蟻蟻」注「亦呼蚝蛸」、各本「蚝蛸」俱誤「吒啗」、

是二處似勝各本、而戴校未及、故表出之、卷末有「正徳己巳夏五得曹毅之宋刻本

手影」一行、又有「丙辰九月在之補抄」一行

しかし、この識語を別の解釈で読み取ったのが陸心源（一八三四—一八九四）『儀顧堂統跋』卷四の解題である。陸心源旧蔵の「影宋抄方言」は東京の静嘉堂文庫に現存する。⁴ 陸心源の解題は影宋抄本が優れるところ十五箇所をあげた後で「戴東原作方言疏証、往往以曹毅所藏宋本為証、與此多同、當即從曹毅所藏宋本出者」という。つまり「得曹

毅之宋刻本手影」を「曹毅所蔵の宋刻本を入手して手影した」という意味にとらえたのである。ここでいう宋刻本は現存する宋慶元本のことであり、その所蔵者は曹毅なる人物であるとして、矛盾のない解釈をしたものと言うことができる。ただし手影したのは誰であるかについては特定していない。

一方、丁介民1969は正徳己巳に抄写したのが明の曹毅之であるとする。その曹毅之は清・朱彝尊『明詩綜』に作品が載る曹弘であるという主張である。確かに『明詩綜』巻四十一に以下のような紹介があり、その作として二種採用される。

弘、字毅之、江陰人、正徳丁丑（十二年、一五二七）進士、除知南豊縣、入為監

察御史西川清軍、以病還里、有方湖集。

この記述によれば、正徳年間に曹毅之なる人物がいたことは確かである。しかし、「正徳己巳夏五得曹毅之宋刻本手影」という識語を「曹毅之が宋刻本を入手して手影した」という意味に理解するのは無理であろう。丁介民は曹毅之が手影者であることの証拠として、『愛日精廬蔵書志』に「影寫宋刊本」とあることをあげる。それに、識語の記述については「蓋舊書雅記、嚮無句逗、致使文意含混、滋生疑惑」として句読がないために誤解したのであるとするが、筆者の見るところ、誤解は丁介民においてさらに甚だしい。

結局のところ、宋刻本と曹毅之（或いは曹毅）と正徳己巳抄本、この三者の関係は陸心源の解釈がもっとも穏当なものであると思う。もう一度整理して言えば、「姓名不詳の誰かが正徳己巳に曹毅の所蔵している宋刻本を抄写したもの」がいわゆる曹毅之本だという解釈である。ただし、戴震と盧文弨とともに「姓名不詳の誰かが正徳己巳に宋曹毅之の刻本を抄写したもの」と解釈して利用したのである。

いずれにしても、その曹毅之本が現在どこかに収蔵されているかどうか不明である。『中国古籍善本書目（経部）』

(上海古籍出版社、一九八五年)に南京図書館収蔵として「明抄本(巻七至十三配清抄本)清丁丙跋」とあるのは丁丙(一八三二—一八九九)『善本書室蔵書志』巻五に「明抄本」「從正徳本出者、其字句不譌、寫尤近古、可珍」とあるもので、「從正徳本出者」という以上は正徳己巳抄本そのものではない。正徳己巳抄本について確かなことを知るには、張金吾が紹介する識語を有する抄本が発見されるのを待つほかない。したがって、本論に付した表に見える戴校と盧校からの抜き書きは、正徳己巳抄本の輪郭を窺い知るよすがになるものであると思う。

三、清儒の曹毅之本の利用

戴震と盧文弨とで、曹毅之本の用い方にはそれぞれかなりの違いが見られる。

戴震が曹毅之本に言及している箇所は、戴氏遺書本で見ると二十四箇所ある。⁽⁵⁾ 戴震の『方言』に対する校勘作業の結果は、『提要』に示されたところによれば、文字の改正二百八十一箇所、文字の補脱が二十七箇所、衍字の削除が十七箇所、合計三百二十六箇所である。そのなかの二十四箇所というのは全体の七・四%にあたる。

一方、盧文弨が宋本(『曹毅之本』)に言及するのは百七十六箇所あり、『重校方言』の校勘作業が約六百箇所あるなかの三十%にあたる。

ちなみに、錢繹『方言箋疏』は曹毅之本を使用しない。⁽⁶⁾

四、戴震『方言疏證』における曹毅之本の利用の特徴

戴震が『方言疏證』で曹毅之本に言及するときは、一箇所を除いて(附表1393)、すべて曹毅之本に従うためである。言い換えると、盧文弨がわざわざ宋本の誤りを指摘するために言及するような使い方はほとんどしなかった。

曹毅之本の利用箇所（二十四箇所）のうち、他の文献資料を利用して曹毅之本の正しさを証明しないものは以下の十二箇所である。

[2.11] / [6.34] / 6.56 / [8.04] / [8.15] / [10.05] / 10.09 / [10.18] / 12.75 / [12.77] /

[13.16] / 13.34（数字は『方言校箋』の巻・条目）

すなわち、半分は他の文献資料を利用して確認しているのである。なお、囲みをつけた八箇所は郭璞の音注に関わる改正であり、戴震の考える音理による判断が働く箇所であろう。文献資料による確認を要しないものであるとも言えることができる。

戴震が曹毅之本を利用して校訂した結果、それを宋慶元本と較べると一致するのは六箇所、つまり二十五%しか合致しないことになる。曹毅之本はそれほど信頼に足る資料ではないことが見えてくる。⁽⁷⁾ただ、パーセンテージではそうなるが、実数で十八箇所が異なるだけというのは、総数を押さえた利用を行っているために、悪影響は少なくてすんだということも出来る。

五、盧文弨『重校方言』における曹毅之本の利用の特徴

盧文弨の宋本の利用のあり方をその目的別に整理すると、以下のようなになる。

[1] 宋本に従って各本・俗本・今本・旧本を改正するもの↓百二十六箇所。

[2] 戴震の校訂を改めるもの↓四箇所。

盧文弨は明示しないが、上記〔1〕に戴校の改正を含むものも少なくない。

[3] 宋本との間に異同はあるものの、文字を替えないもの↓十三箇所。

存疑のため、同音関係のため、異体関係のためなどの理由による。

〔4〕宋本の方が誤りであることを指摘するもの↓三十四箇所⁽⁸⁾

盧文弨が曹毅之本の文字が正しいことを主張するために他の文献資料を参照している箇所は、以下のようにわずかに七箇所⁽⁹⁾に過ぎない。

3.50/4.16/4.42/4.44/5.31/9.25(廣韻)/12.05(廣雅)

囲みで示したように『廣韻』と『廣雅』を参照する以外は、五箇所⁽¹⁰⁾で正徳二年華理刊本の影写本を参照している。華理、字は汝徳、活字印刷で書物を刊行していたらしい。『蔵書紀事詩』に引く『無錫県志』に(上海古籍出版社、一九八九年、七三〇頁)「所製活版甚精密、每得祕書、不數日而印本出矣」という。『方言』が活字本であったかどうかは分からない。存亡も不詳である。

盧文弨は上の五箇所を除く一六九箇所については、他の文献資料による検証をせずに曹毅之本の文字を採用しているのである。校勘学も盧文弨にいたると、宋本に対する信頼がその程度にまで高まっていた証左であろう。ただし、文献批判による検証を欠いた宋本の採用が、我々に正しいテキストをもたらすことになるかどうかは別の問題である。盧文弨『重校方言』の校訂の結果、百二十三箇所⁽¹¹⁾で現存宋慶元本と不一致が見られ(別表●の箇所⁽¹²⁾で約七十%)、合致するのは三十%にすぎない。また、音注の校勘箇所が七十五箇所⁽¹³⁾数えられるが、その六十箇所⁽¹⁴⁾が宋慶元本の音注と一致しない。宋慶元本と合致するのは二十%で、ほかの部分より精度が落ちる。音注はやはり音理が大切であることを示している数値であるといえよう。

六、戴盧両氏校訂結果の異同

ここで、戴震と盧文弔の校勘作業の結果を較べてみる。下に示した記号は付表のなかの記号である。

- ◎ ↓ 両者ともに宋本に言及して、校訂箇所が等しいもの、十五箇所。
- ↓ 戴校に宋本の言及はないが、校訂結果が戴校盧校同じもの、五十八箇所。

宋本にもとづく校訂結果が両者の間で等しいものは百七十六箇所中七十三箇所、約四十二%となる。言い換えれば、盧校は宋本を根拠にして戴校結果の五十八%を書き換えたということになる。⁽⁹⁾

ことがらを音注に限ると、戴校と盧校が一致するのは約三十四%。やはり音注の扱いは、機械的に諸本の異同にたよるだけでは望ましい処理が出来ないことを意味する。

七、盧氏『重校方言』所引李文授本（宋慶元本）

盧文弔は『重校方言』の刻成の後に、李文授本、すなわち宋慶元本を見て〈補遺〉に四十八箇所の引用をして『重校方言』の校訂を補った。⁽¹⁰⁾

李文授本は宋慶元六年（一二〇〇）に刊刻された『方言』であるが、清初に行方不明となり、清儒はこれを参照することが不可能になった。これが民国初めに再発見され、蔵書家の傅增湘が買い取り、現在は中国国家図書館に現存する。⁽¹¹⁾

傅增湘が慶元本『方言』を買い入れたときに、当時の愛書家たちが眼福を得てそれぞれに識語を書き記している。そのなかのひとつ、李盛鐸の識語には、盧校所引の李文授本と再発見の宋慶元本は必ずしも一致しないことを指摘し

附注

- (1) 『方言』の注本については華學誠2001に詳しい分析がある。また、戴震の引用した『文選』についての考察は佐藤進・小方伴子1998に詳しい。
- (2) 宋慶元刊本『方言』の伝来については佐藤進1998aおよび佐藤進2004がある。
- (3) 正徳己巳四年には李珣の刊本がある。十行十六字の款式で宋本とは異なる。中国国家図書館に傅増湘旧蔵本が現存する。
- (4) 佐藤進1998bにその全葉の影印を刊行した。
- (5) 卷二第三条の一箇所だけは四庫全書本・聚珍版本に見えない。
- (6) 明・上党の馮氏影宋抄本を利用した箇所がある。卷二第三条に「舊本奪秦有二字、今明上黨馮氏影宋鈔本補」とある(中華書局本六一頁)。上党の馮氏とは馮舒(一五九三—一六四九)、字は已蒼のことで、弟の馮班、字は定遠とともに蔵書家で知られ、「二馮」と称された(『清史列伝』卷七十、中華書局、五七〇—五七〇三頁)。錢曾(一六二九—一七〇一)『讀書敏求記』に、已蒼が宋本『方言』を見たという記述がある。錢繹のいう馮氏影宋鈔本の伝存については不詳。
- (7) もちろん、宋慶元本と一致するから正しいテキストであるとも言えない。それはまた別の問題である。
- (8) ここにかかげた数字を合計すると百七十七箇所になるが、(1)(4)を同時に行なう箇所があるために、資料としてかかげた表の百七十六箇所よりは一箇所多い。その箇所は903で、脱字を指摘し(1)にあたる)、しかもその脱字は宋本に従わないとする(4)にあたる)。
- (9) ほかに別表にないもの、つまり宋本に関係なく戴校を書き換えた箇所がある。
- (10) 宋慶元年間に『方言』を刊刻した李孟伝の字は文授である。そこで、盧文弨は慶元本を李文授本と称した。(補遺)に盧文弨がいち早く宋慶元本系統の抄本を参照した功績は大変に大きい。たとえば、錢繹が『方言箋疏』に数箇所の李文授本を引用しているが、それらはすべて盧校からの引用である。その後、周祖謨の『方言校箋』が書かれるまでは、宋慶元本『方言』を参照した業績はない。
- (11) 傅増湘が宋慶元本『方言』を入手した経過及び各種の翻刻・影印などについては、傅増湘の〈蔵書雜詠『宋刊方言』十八首〉に詳しい。詩の本文は傅増湘1989に掲載され、その訳注が佐藤進2004である。

【参考文献】

- 丁介民 1969 『方言考』、台湾中華書局。
傅增湘 1989 『藏園群書題記』、上海古籍出版社。
華學誠 2001 『漢語方言學史研究』、台湾藝文印書館。
劉盼遂 2002 『王石渠先生年譜』、『劉盼遂文集』、北京師範大学。
佐藤進 1988a 〈揚雄『方言』の宋刊本とその影印・抄写・翻刻〉、『中国における言語地理と人文・自然地理(2)』、平成九—十一年科学研究費成果報告書(非売品)。
佐藤進 1988b 〈宋刊方言四種影印集成〉、『中国における言語地理と人文・自然地理(2)』、平成九—十一年科学研究費成果報告書(非売品)。
佐藤進 2002 〈覆刻影印宋刊『方言』各種の異同と盧文弨所拋宋本の検討〉、『慶谷壽信教授記念 中国語学論集』、好文出版。
佐藤進 2004 傅增湘〈藏書雜詠『宋刊方言』十八首〉訳注、『人文学報』三五二、東京都立大学。
佐藤進・小方伴子 1998 戴震『方言疏證』引『文選』考、『人文学報』二九二、東京都立大学。

【補記】

本論は、浙江大学漢語史研究中心編『漢語史學報』第六輯(二〇〇六年十二月)所載「『方言疏證』及『重校方言』所引曹毅之本考」の日本語訳である。また、付表において、印刷上困難な字形は「」の中に二字合成の形で示した。

校箋 条目	補強曹毅之本之其他資料	戴氏曹本 利用目的	慶	戴
2.11		改正音注	●	◎
3.12	尚書疏引方言「凡飲藥而毒，東齊海岱間或謂之暝，或謂之眩」		●	◎
9.25	說文云「扞，動也」。說文又作「劓，船行不安也。讀若兀」		●	◎
10.09				◎
12.75			●	◎
13.34			●	◎
13.93	永樂大典本	改正曹本		◎
13.113	(姑息之姑) 玉篇廣韻有「[處古]」字，並云「[處古]，息也」			◎
13.143	說文云「[盧]，飯器，以柳爲之，[盧]或從竹，去聲」		●	◎
校箋 条目	戴震疏證「戴校結果」戴氏校勘(佐藤備忘)	盧氏曹本 利用目的	慶	戴
1.04	「秦晉之間曰肄」	改正各本		
1.16	歎各本訛作欺(據說文改)	改正俗本	●	○
1.19	年長也之年各本訛作永	改正戴校		
1.21	假各本訛作暇	改正舊本	●	
1.22	觸抵當作音觸抵之抵	改正俗本	●	○
1.25	摸刻本皆作模(據爾雅疏改)	改正俗本		○
2.03	永樂大典本曹毅本俱不脫(四庫本聚珍本無「曹毅本俱」四字)	改正各本		◎
2.05	廣韻[舟眷]雙也今據以訂正	改正各本		
2.06	「言徙徙也」	改正各本		
2.07	諱卽偉之訛(戴氏曰：明正德己巳影宋曹毅之刻作「曰偉」，皆衍「曰」字。據說文及漢書注文選注刪。)	改正各本		◎
2.11	「抱媯」(俗本包含戴本在內)	改正俗本	●	
2.12	「凡罍支體不具者」	改正各本	●	
2.14	「或謂之徂，或曰懷」	明宋本誤	●	
2.16	「齊衛宋魯」	改正各本	●	
2.20	「馮…怒也」(據楚辭補注改)	未改異體		○
2.24	「音梯」	改正各本	●	
3.08	「音魚」	未改同音	●	○
3.09	「魯齊之郊」	改正各本	●	
3.09	「鈐鑄」(俗本包含戴本在內)	改正俗本		
3.09	「大合」(俗本包含戴本在內)	改正俗本	●	
3.10	獲各本多訛作「艸/狡」，曹毅之本不誤(介紹玉篇廣韻所引同)	支持戴校	●	◎
3.11	「音鱗」(俗本包含戴本在內)	改正俗本	●	
3.12	「音聊」(俗本包含戴本在內)	改正俗本	●	
3.16	「慰…尻也」	未改異體	●	○
3.21	「音閭或謚」	改正各本	●	
3.50	蔡刻本皆訛作葉，據永樂大典本作葉	改正俗本		○
4.05	「齊魯之郊」	明宋本誤	●	○
4.05	「謂之柎」	明宋本誤	●	○
4.06	「字亦作禴」	明宋本誤	●	○
4.07	「錯勇反」(俗本包含戴本在內)	改正俗本	●	
4.08	「傳曰微禴與禴」	未改異體		○
4.13	「檻褻綴結也」(俗本包含戴本在內)	改正俗本	●	
4.16	「無袂之衣」(俗本包含戴本在內)	改正俗本		

205 『方言疏證』及び『重校方言』所引「曹毅之本」について

	校箋 条目	方言疏證正文・注・音注	戴震疏證
	2.11	抱媯(孚萬反…)耦也	注内孚萬反,各本孚訛作迫,從曹毅本
	3.12	東齊海岱之間謂之暝	暝,各本訛作眠,曹毅之本不誤
	9.25	蒿謂之扞	扞訛作仵,…曹毅本作扞
	10.09	東齊周晉之鄙	東齊各本訛作東南,從曹毅之本
	12.75	蒔植立也	植各本訛作殖,曹毅之本不誤
	13.34	姚媯好也	姚,各本訛作眺,曹毅之本不誤
	13.93	黧色也(黧然,赤黑貌也)	注内黑字諸刻作毛,永樂大典本及曹毅之本作色,皆舛訛
	13.113	豔且也(豔猶[處古]也)	注内[處古]字各本訛作[處古],曹毅之本不誤
	13.143	趙魏之郊謂之筭	筭各本通作去,曹毅之本筭
重校方言 卷・葉・行	校箋 条目	重校方言正文・注・音注	盧氏校勘記(佐藤備忘)
1.3.3	1.04	秦晉之間曰隸	隸字從宋本
1.10.2	1.16	南楚江湖之間曰歇	歇俗本誤作欺,宋本不誤
1.11.7	1.19	延永長	延永長也攷宋本亦如是
1.13.1	1.21	夏周鄭之間謂之曰嘏	嘏舊誤作暇,今從宋本改正
1.14.2	1.22	音注:觸抵	觸抵…俗本誤衍也字今從宋本刪
1.14.9	1.25	陳楚之間謂之曰摸	俗本多从木作模,今依宋本
2.19.10	2.03	秦有榛娥之臺	秦有二字各本脱,從宋本補
2.20.8	2.05	睽雙也	各本作[目眷],今從宋本作睽
2.21.6	2.06	注:言徙偕也	徙偕各本作徙偕,今從宋本
2.22.1	2.07	偉其肥臑謂之臑	各本…偉作諱,宋本作偉
2.24.6	2.11	抱媯	俗本作媯,今從宋本
2.25.2	2.12	凡獸支體不具者	各本作罍許救反家畜也,今從宋本
2.25.9	2.14	日恪或曰懷	宋本或字誤在日恪上,今移正
2.26.4	2.16	齊魯宋衛	宋本如是,各本作齊衛宋魯
2.27.7	2.20	馮…怒也	宋本作憑,…今案皆可通
2.28.6	2.24	音注:音梯	各本音梯,今從宋本
3.35.7	3.08	音注:音魚	案宋本音吾,皆可通
3.36.6	3.09	魯齊之間	間,各本作郊,今從宋本
3.36.6	3.09	音注:鈴鏡	俗本作鈴鏡,今從宋本正德本
3.36.6	3.09	音注:徒合	徒合從宋本,俗本作大合
3.37.2	3.10	注:今江東亦名菝也	今從宋曹毅之本(慶元本[艸/後])
3.37.6	3.11	音注:音鰈	俗本鰈誤作鱖,今從宋本改正
3.38.3	3.12	音注:音滂	俗本作音聊,今從宋本
3.39.9	3.16	慰…尻也	尻,古居字,宋本作居
3.40.7	3.21	音注:音謹	正德本作音閩或湛,今從宋本
3.46.4	3.50	注:藁相著兒	俗本藁誤作葉,今從宋本正德本改正
4.50.7	4.05	齊魯之郊	宋本正德本魯作楚,…爾雅疏則皆同今本
4.50.7	4.05	謂之褊	褊宋本作褊,…爾雅疏則皆同今本
4.51.1	4.06	注:字亦作禴	宋本注禴字作禴,正德本作禴戴本從之
4.51.5	4.07	音注:息勇反	俗本作錯勇反,今從宋本
4.51.6	4.08	注:傳曰微褊與褊	宋本褊作褊同
4.52.5	4.13	注:褊褊綴結也	從宋本,俗本多作綴
4.52.8	4.16	無袂衣	袂下俗本有之字,案宋本正德本皆無

校箋 条目	戴震疏證「戴校結果」戴氏校勘（佐藤備忘）	盧氏曹本 利用目的	慶	戴
4.16	「音藝」	明宋本誤	●	○
4.17	「無祠之禱」	明宋本誤		
4.18	「千苕…反」	改正各本	●	
4.20	「尖劍反」	改正各本	●	
4.26	禪各本訛作禪，今訂正	改正俗本	●	○
4.27	「所著上」	明宋本誤	●	○
4.27	「音但」	明宋本誤	●	○
4.37	「嘔」	改正各本	●	
4.42	「於怯反」	改正俗本		○
4.42	「音綺亦千」	明宋本誤	●	○
4.43	「或謂之承露」（戴本不接上文）	明宋本誤		
4.44	「麤者謂之履」	改正異體		
4.44	「麤者謂之履」	改正俗本		
5.09	「宋魏之間」	改正各本	●	
5.10	「度腫反」（俗本包含戴本在內）	改正俗本		
5.17	「所以注斛」	改正各本		○
5.31	「此直語楚聲轉也」	改正俗本		○
5.33	「謂之縶」（戴校無考證）	改正俗本	●	○
5.33	「相卞反」	改正俗本	●	
5.33	「謂之環：環」	未改存疑	●	○
5.34	「其麤謂之」	改正各本		
5.34	「今云笱箴箴」	明宋本誤	●	○
5.36	梓，今方言各本訛作樺（據初學記玉篇廣韻改）	改正俗本	●	○
5.36	註內詵訛作先	改正俗本	●	○
6.02	諸刻脫耻字，…惟永樂大典本有之	明宋本誤	●	○
6.02	諸刻脫…司火二字，惟永樂大典本有之	明宋本誤		○
6.03	「言俄搖也」（各本不含戴本在內）	改正各本 明宋本誤		○
6.18	「誣…與也」	改正俗本	●	
6.19	「或曰担」担各本訛作狙，…後卷十內担取也，…可證狙即担之訛	改正俗本	●	
6.19	永樂大典本下有但伺也三字，舛誤不可通，…但伺也即担黎之訛	改正俗本	●	
6.20	注內目略也諸刻脫略字，永樂大典本有	改正各本		○
6.25	「獸無耦曰介，飛鳥曰雙」	改正各本		
6.30	蝻諸刻訛作蟻	改正舊本		○
6.31	「度措反」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
6.34	注內「圯塞」各本「圯」訛作「把」，曹毅之本不誤	改正舊本	●	◎
6.34	「癯披散也」	明宋本誤	●	○
6.36	「桶偪滿也」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
6.37	「冉鑣危也」	未改異體		
6.40	田各本訛作由，今改正	改正俗本		○
6.50	「閻苦」…今方言各本苦訛作笞，…，據廣雅訂正	改正各本		
6.56	注內各本脫「皆」字，曹毅之本有	改正各本	●	◎
7.02	「音笑謔」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	

207 『方言疏證』及び『重校方言』所引「曹毅之本」について

重校方言 卷・葉・行	校箋 条目	重校方言 正文・注・音注	盧氏校勘記（佐藤備忘）
4.52.8	4.16	音注：音藝	宋本音寐不必從
4.52.10	4.17	無祠袴	祠下宋本及近本皆有之，正德本無
4.53.2	4.18	音注：所交…反	正德本作于茗，今從宋本
4.53.4	4.20	音注：於劍反	正德本於作尖，今從宋本
4.53.10	4.26	謂之禪	禪俗本誤作禪，今從宋本正德本（靜嘉堂本禪）
4.54.2	4.27	注：所著上	宋本無所著上三字，玉篇有
4.54.2	4.27	音注：音但	音但二字…宋本亦無
4.55.5	4.37	音注：漚…音	正德本漚作嘔，今從宋本
4.56.7	4.42	音注：於怯反	俗本作於法反誤，今宋本正德本改
4.56.7	4.42	音注：音績亦千	宋本績作績
4.56.7	4.43	或謂之承露	宋本承上無之字
4.57.5	4.44	粗者謂之屨	此粗字宋本正德本皆同
4.57.5	4.44	粗者謂之屨	屨…俗本…作履誤，今從宋本改正
5.61.8	5.09	宋衛之間	衛各本作魏，今從宋本
5.62.3	5.10	音注：度睡反	俗本睡作腫，今從宋本（慶元本漫漶）
5.64.9	5.17	所以注斛	俗本所以上空五字，郎本…補其闕，皆非也，宋本竝無闕文
5.68.7	5.31	注：此直語楚聲轉也	俗本作轉聲耳，今從宋本正德本改正
5.69.2	5.33	謂之縵	俗本誤作縵…，今從宋本改正
5.69.2	5.33	音注：相卷反	俗本誤作…相主反，今從宋本改正
5.69.2	5.33	謂之環：環	宋本同上作環
5.69.10	5.34	其粗謂之	粗字從宋本正德本，今或作麤或作麤，皆非
5.69.10	5.34	注：今云拚篋篷	宋本正德本篷皆作蓬
5.70.8	5.36	謂之攄	俗本誤作攄…，今据宋本改正
5.70.8	5.36	音注：音詵	俗本誤作…音先，今据宋本改正
6.75.7	6.02	注：言聃無所聞知也	宋本a誤作耻，正德本不誤
6.75.7	6.02	注：司火	宋本司火作伺火亦誤，今從外傳改正
6.76.6	6.03	注：言俄徭也	俄字俗本脫，宋本有娥字，案廣雅俄徭也，定作俄字
6.79.6	6.18	誣…与也	宋本作誣，…俗本多作男，今從說文爲改
6.79.10	6.19	或曰狙	俗本正文誤作狙，…今從宋本補正（靜嘉堂本狙）
6.79.10	6.19	注：狙伺也	俗本…脫注，今從宋本補正（慶元本但伺也，靜嘉堂本狙伺也）
6.80.3	6.20	注：亦云目略也	郎本…，胡本…，吳本…，今從宋本
6.81.3	6.25	飛鳥曰雙	此條從宋本提行，不承無耦之文爲是
6.82.1	6.30	注：螻蛄蟻也	舊本作螻蛄，今從宋本
6.82.4	6.31	音注：度指反	俗本指作指，今從宋本
6.82.9	6.34	音注：一音圯塞	舊本圯誤作把，今從宋本改正
6.82.9	6.34	撕披散也	宋本作撕，…，自當作撕爲是
6.83.5	6.36	悃悃滿也	俗本作悃，今從宋本
6.83.7	6.37	冉鎌危也	鎌宋本作鎌，…今案二字本同
6.84.2	6.40	藺田力也	俗本田誤作由，今從宋本
6.85.10	6.50	閻苦開也…苦…	各本皆作苦，宋本下一字作苦，…，竊疑皆當作苦字
6.87.8	6.56	注：皆高峻之兒	各本脫皆字，宋本有（慶元本■）
7.89.2	7.02	音注：音笑噓	俗本噓誤作謔，今從宋本

校箋 条目	戴震疏證「戴校結果」戴氏校勘（佐藤備忘）	盧氏曹本 利用目的	慶	戴
7.03	「懸物貌」	改正俗本		
8.01	注內「神」字，諸刻訛作抑，永樂大典本及曹毅之本作神	改正各本	●	◎
8.01	「音狗寶」	明宋本誤	●	○
8.04	「穀」，音「狗寶」，各本作音「顧」，從曹毅之本	改正各本	●	◎
8.08	「其小者謂之鵓鳩」（據廣雅改）	改正俗本	●	○
8.09	「謂之鵓鳩」福丕兩音	改正各本	●	
8.12	「謂之憺爵」	改正各本	●	
8.13	「謂之倉庚」	改正俗本	●	
8.15	「直名爲蛤解，音懈」各本訛作「直名爲蛤獸音解」，從曹毅之本	改正各本	●	◎
8.16	「謂鼠爲鼯」	改正各本	●	
9.01	「楚謂之釵」（各本不含戴本在內）	改正各本		
9.01	鑛下永樂大典本有音寅二字，諸刻皆脫去	改正各本		○
9.02	「余正反」	改正各本	●	
9.03	「先儒處之」（戴校無考證）	改正俗本		○
9.03	「多亦不了」（戴校無考證）	改正俗本		○
9.11	「音縷」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
9.11	注內音覩多訛作音脈，從曹毅之本（盧校從宋本而與曹毅之本異）	改正俗本	●	
9.11	「尾屈」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
9.18	「轄…鑷也」	明宋本誤	●	○
9.22	「音聃」	明宋本誤	●	○
9.24	「音杆」	改正各本		
9.25	注內音荐二字各本荐訛作符，今訂正	改正各本	●	
9.25	注：揚州人呼渡津舫爲瀟，荊州人呼杭	改正戴校	●	
9.25	「音獎」	未改同音		
9.25	（無音）	明宋本誤		
10.02	注內音譚，亦音淫，各本訛作音潭亦曰淫，今改正	改正各本	●	
10.03	「江湘之間或謂之無賴」	改正各本	●	
10.05	「癡」多訛作「癡」，曹毅之本不誤	改正各本	●	◎
10.07	諸刻作秦漢之代語，蓋不知者妄改，今從永樂大典本	改正俗本	●	○
10.10	「多惜恨也」（各本不含戴本在內）	改正各本	●	○
10.13	宋安靜也	改正戴校		
10.13	（無音）	明宋本誤	●	
10.14	「恪校反」（各本不含戴本在內）	改正各本		○
10.14	「音駮又音摺」又音摺三字訛作又音豹音豹五字，今訂正	改正各本	●	
10.16	「音義」（各本不含戴本在內）	改正各本	●	○
10.18	（拂字）注內音「費」諸刻訛作「曬」，今從曹毅之本	改正各本	●	◎
10.21	「灑沐」沐亦作流	改正各本	●	
10.26	「皆音義所未詳」	明宋本誤		○
10.27	「若葉反」	改正各本	●	
10.33	「塗殄」（各本不含戴本在內）	改正各本		○
10.33	「恪交」	改正各本	●	
10.33	「六者」	改正各本		
10.37	「此亦」	改正各本		

209 『方言疏證』及び『重校方言』所引「曹毅之本」について

重校方言 卷・葉・行	校箋 条目	重校方言正文・注・音注	盧氏校勘記（佐藤備忘）
7.89.7	7.03	注：懸物兒	俗本脫兒字，宋本有
8.99.2	8.01	注：事神虎説	神各本誤作抑，今從宋本（靜嘉堂本神）
8.99.2	8.01	音注：音狗寶	宋本誤作音湯
8.100.2	8.04	〔獻〕音注：音狗寶	各本俱音顧，今從宋本
8.101.10	8.08	其小者謂之鵠鳩	俗本作鵠，…今從宋本
8.102.7	8.09	謂之鵠鳩	各本鳩作鵠，音丕，今從宋本（慶元本音鵠音不）
8.104.3	8.12	謂之鵠爵	各本作懷爵，今從宋本
8.104.9	8.13	謂之鵠鵠	鵠俗本誤創，今從宋本（漢魏叢書鵠）
8.105.4	8.15	注：直名爲蛤解音懈	解音懈各本誤作獸音解，今從宋本改正
8.106.5	8.16	謂鼠爲蟬	各本作鼠，今從宋本
9.107.2	9.01	楚謂之鈺	各本正文作子，今依宋本作鈺，與子同
9.107.2	9.01	音注：音寅	各本脫音，宋本有
9.107.7	9.02	音注：余整反	各本誤余正反，今從宋本
9.107.10	9.03	注：先儒處之	俗本脫處字，…今從宋本
9.107.10	9.03	注：多亦不了	俗本…不了二字作有，今從宋本
9.110.1	9.11	音注：音鏤	俗本音縷，今從宋本
9.110.1	9.11	音注：音覓	俗本音脉，今從宋本，戴本音覓…亦與覓音同
9.110.1	9.11	注：屈尾	俗本到作尾屈，今從宋本
9.111.8	9.18	轄…鏹也	鏹宋本省作鏹…各本脫也字，宋本有（慶元本無）
9.113.4	9.22	音注：音聃	宋本音冉
9.113.4	9.24	音注：音扞	近代字書引此作鈺音于，今從宋本
9.114.1	9.25	音注：音箭	各本誤作音符，今從宋本改
9.114.1	9.25	注：揚州人呼渡津舫 爲杭，荊州人呼瀆	杭瀆二字，宋本與廣韻正相合，戴互易之誤 （慶元本瀆作橫）
9.114.1	9.25	音注：音漿	宋本音獎
9.114.1	9.25	音注：音七	宋本無音，別本有
10.117.4	10.02	音注：音覃一音淫	各本誤作音潭亦曰淫，今從宋本
10.117.7	10.03	江湘之間謂之無賴	各本之間下有或字，宋本無，今從之
10.118.7	10.05	音注：音癡眩	音癡眩各本誤作音癡眩，今從宋本（靜嘉堂本癡）
10.119.7	10.07	注：南鄙之代語	南鄙俗本作秦漢誤，今從宋本改正（慶元本■■■）
10.121.2	10.10	注：多惜恨也	惜各本誤作情，今從宋本
10.121.10	10.13	冢安靜也	冢字…戴本以爲訛字改作冢，太泥今仍從宋本
10.121.10	10.13	音注：音寂	宋本音寂二字在下冢下，今移此
10.122.4	10.14	音注：格校反	各本作格交反，今從宋本
10.122.4	10.14	音注：音羸	各本音羸下有又音狗音豹五字，宋本無
10.122.10	10.16	音注：音義	各本作音義，今從宋本
10.123.4	10.18	音注：音費	各本誤音曬，今從宋本（慶元本霏？）
10.124.1	10.21	澗沔	沔音術各本誤作沐，今從宋本（慶元本沐，音閱）
10.125.3	10.26	注：皆音義所未詳	宋本皆字作此
10.125.5	10.27	音注：苦葉反	各本苦誤作若，今從宋本
10.127.9	10.33	音注：塗殄	各本塗誤作塗，今從宋本
10.127.9	10.33	音注：格校	各本校作交，今從宋本（慶元本校）
10.127.9	10.33	注：六者亦	亦字各本皆脫，今從宋本補
10.128.10	10.37	注：亦此愨聲之轉也	亦此二字各本到（倒？），今從宋本

校箋 条目	戴震疏證「戴校結果」戴氏校勘（佐藤備忘）	盧氏曹本 利用目的	慶	戴
10.40	「械鯢…老也」	明宋本誤		○
10.41	「神秘」…諸刻神訛作撞	明宋本誤	●	
10.45	「亦言曝」各本訛作「目果」，今訂正	明宋本誤		○
11.01	「江東人呼嚙螻」	明宋本誤	●	
11.02	「其雌蜻謂之少」	未改異體	●	
11.03	「蛄詣謂之杜蛸」	改正各本	●	
11.04	「孫一作絲」	未改存疑		○
11.06	（提行）	改正俗本		
11.07	「亦呼吒咄」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
11.07	「音近詐」	明宋本誤	●	○
11.09	「音蔡」	改正各本	●	
11.09	「牆沮反」牆各本訛作壞（各本不含戴本在內）	改正各本	●	
11.11	「其大而蜜」	改正各本	●	
11.11	「幽悅二音」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
11.15	「由延」	未改同音	●	○
11.15	「音麗」	未改同音	●	○
11.16	「音無」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
12.01	「音段」	明宋本誤	●	
12.05	「菲怒悵也」案菲亦作蕪	改正各本	●	
12.08	「度六反」乃類隔改音，和則直六反	改正俗本	●	
12.10	「躔…循也」	未改同音		○
12.18	「妨計反」	改正各本	●	
12.31	「效…明也」	改正各本	●	
12.46	「杼井」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
12.62	「音釘銅」	明宋本誤	●	○
12.63	「搖祖上也」	明宋本誤	●	○
12.75	「音侍」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
12.76	鬻各本訛作鬻，今訂正	明宋本誤		
12.77	（〔人覩〕字）音喙，各本多訛作音劇，從曹毅之本	改正各本	●	◎
12.80	「魚晚反」	明宋本誤	●	○
12.81	「音愧」（今本包含戴本在內）	改正今本	●	
12.82	鰥諸刻訛作鰥，今從永樂大典本	改正俗本	●	○
12.92	「自盈也」	改正各本		
12.99	「洲淤之浦也」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
13.16	（唏，虛几反）「虛」各本多訛作「靈」，今從曾毅之本	改正俗本	●	◎
13.18	音〔足簾〕	改正俗本	●	
13.25	「山頂反」	明宋本誤	●	
13.26	偃地也，各本也訛作反，今訂正	明宋本誤	●	○
13.27	「音務」	改正各本	●	
13.39	「巨畏反」	改正各本	●	
13.43	「音酋」（各本不含戴本在內）	改正各本	●	
13.46	諸刻無此三字，永樂大典本及曾毅之本有之	改正各本		◎
13.49	「音約」諸刻訛作音結，永樂大典本訛作音結的，今訂正	改正戴校		
13.83	標各本訛作標，格訛作格，曾毅之本不誤。廣韻「標，格也」本此	改正俗本	●	◎
13.85	汲各本訛作級，今訂正	改正各本	●	○
13.101	「音疣贅」（各本不含戴本在內）	改正各本	●	

211 『方言疏證』及び『重校方言』所引「曹毅之本」について

重校方言 卷・葉・行	校箋 条目	重校方言 正文・注・音注	盧氏校勘記（佐藤備忘）
10.129.7	10.40	械鯢…老也	械宋本作械
10.129.10	10.41	音注：攪撻	宋本作神秘，各本作挿撻，皆誤
10.130.10	10.45	注：亦言曝	曝宋本作[目果]，字書無此字
11.133.2	11.01	注：江東人呼蠹螭	宋本作作蠹螭
11.133.7	11.02	其鷓鴣謂之少	鷓宋本作[虫此]
11.135.1	11.03	姑諸謂之杜蛸	諸各本作詣，…誤，今從宋本
11.135.4	11.04	注：一作絲	宋本有一作絲三字，當是後來校者所加
11.136.1	11.06	姑蠶之強蚌	此條俗本連上，今依宋本別爲一條
11.136.5	11.07	音注：亦呼蚝蛎	俗本作吒啗，今從宋本改正（靜嘉堂蚝蛎）
11.136.5	11.07	音注：音近詐	近詐宋本作之詐，誤
11.137.2	11.09	音注：音蔓	蔓各本作藁，今竝從宋本
11.137.2	11.09	音注：音思沮反	思各本作壞，今竝從宋本
11.137.7	11.11	其大而蜜者	各本正文蜜下脫者字，今依宋本增入
11.137.7	11.11	音注：幽稅二音	稅俗本作悅，今從宋本
11.139.8	11.15	音注：由延	宋本作蚰蜒
11.139.8	11.15	音注：音麗	宋本音离
11.140.2	11.16	音注：音務	俗本作音無，今從宋本
12.143.2	12.01	音注：音段	宋本作音喚，似誤
12.143.9	12.05	悲愨悵也	各本作菲，宋本作悲，與廣雅同，今從之
12.144.5	12.08	音注：直六反	俗本作度六反誤，今從宋本改正
12.144.8	12.10	躔…循也	宋本循作循
12.145.9	12.18	音注：匹計反	各本作妨計反，今從宋本
12.147.3	12.31	噉…明也	噉各本作效，今從宋本
12.148.10	12.46	音注：杼渫	杼渫俗本作杼井，宋本作杼渫乃杼渫之誤
12.151.5	12.62	音注：音釘銅	宋本作封局
12.151.6	12.63	搖祖上也	宋本祖作祖，義亦未詳
12.152.8	12.75	音注：蔣音恃	俗本作音恃誤，今從宋本（靜嘉堂本恃）
12.153.1	12.76	鬻…盡也	各本方言誤作鬻，宋本亦誤
12.153.3	12.77	音注：音喙	各本音劇誤，今從宋本
12.153.8	12.80	音注：魚晚反	宋本作魚偃反
12.153.9	12.81	音注：音饋	宋本音饋，今本皆作音愧
12.154.1	12.82	饌饌飽也	（饌）俗本誤作饌，今從宋本改
12.155.1	12.92	憤目盈也	目各本作自，今從宋本
12.155.10	12.99	注：洲淤之浦	注末俗本有也字，宋本無
13.160.8	13.16	音注：虛几反	俗本虛誤作靈，今從宋本
13.161.2	13.18	音注：音蕭	俗本音[足蕭]，今從宋本
13.162.3	13.25	音注：山項反	宋本作山拱反誤（慶元本山頂反）
13.162.4	13.26	注：偃地也	各本誤偃地反，宋本作徒結反，似因反字而妄改之（慶元本偃地反）
13.162.6	13.27	音注：音無	各本音務，今從宋本
13.164.6	13.39	音注：許畏反	各本許作巨，今從宋本
13.165.1	13.43	音注：音適	各本誤音適，今從宋本
13.165.5	13.46	類法也	各本無此三字，宋本有之
13.165.9	13.49	音注：音結的	宋本如此，戴本改作音約
13.169.9	13.83	標格也	標格，俗本誤皆手旁作，今從宋本改正
13.170.2	13.85	注：扱猶汲也	汲各本誤作級，今從宋本
13.171.10	13.101	音注：音脫贅	各本音剝，今從宋本（慶元本音剝音脫贅）

校箋 条目	戴震疏證「戴校結果」戴氏校勘（佐藤備忘）	盧氏曹本 利用目的	慶	戴
13.112	「音跳躡也」	改正各本		
13.139	「俾倪」	未改同音	●	○
13.139	「音亦」	明宋本誤	●	○
13.140	「呼凱反」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
13.141	「方氏反」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
13.143	「盛餅筥也」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
13.147	「木謂之楨扶」（舊本包含戴本在內）	改正舊本	●	
13.149	「音毛」（俗本包含戴本在內）	改正俗本	●	
13.151	「鰥音」	改正各本	●	
13.151	「卽〔麥兒〕也」	改正各本	●	
13.154	諸刻脫墓猶慕也四字，今從永樂大典本補	改正各本	●	○
13.154	「自關而東謂之丘」丘訛作甘，從曾毅之本（文選李注作「丘」）	改正舊本	●	◎
	盧氏所見宋本與慶元本不同的次數（百分比） → 123（70%）		127	
	盧校與戴校符合的次數（百分比） → 75（42%）			79

213 『方言疏證』及び『重校方言』所引「曹毅之本」について

重校方言 卷・葉・行	校箋 条目	重校方言正文・注・音注	盧氏校勘記（佐藤備忘）
13.173.4	13.112	注：言跳躡也	言，各本作音，今從宋本
13.176.3	13.139	音注：俾倪	宋本作睥睨，同
13.176.3	13.139	音注：音亦	宋本音釋，非
13.176.5	13.140	音注：呼亥反	俗本作呼凱反誤，今從宋本
13.176.7	13.141	音注：必氏反	俗本作方氏反，今從宋本
13.177.3	13.143	注：盛餽筥也	餽卽飯字，俗本誤作餅，今從宋本改正
13.178.1	13.147	椀謂之椀枿	舊本作木謂之涓扶誤，今椀字從宋本 椀枿從廣雅皆改正
13.178.7	13.149	音注：音託	俗本誤音毛，今從宋本
13.179.4	13.151	音注：音餽	各本音餽，…今俱從宋本改正（慶元本餽音）
13.179.4	13.151	注：卽餽也	各本…餽誤作〔麥兒〕…今俱從宋本改正
13.180.2	13.154	注：墓猶慕也	各本脫墓猶慕也四字，今從宋本補（慶元本墓猶慕也）
13.180.2	13.154	自關而東謂之止	舊本誤作廿，今從宋本改正